

さくら



令和6年6月3日(月)

良慶さんの教え



京都の清水寺(きよみずでら)に、かつて大西良慶(おおにしりょうけい)さんという僧侶がいました。良慶さんは107歳まで生き、大長老として仏教界に大きな影響を与え続けました。

ある時、良慶さんは次のように言いました。「人間は善いことをできんでもいい。あんな善いことをしたいなあ、こんな善いことをしたいなあ、と思っているだけでいい。そのかわり、悪いことは思ってはいかんよ」

心の中で思っていることは、自然と顔色や行動に現れるからです。このことを表す諺として「心(こころ)内(うち)にあれば色(いろ)外(そと)に現(あらわ)る」というものがあります。

良慶さんの教えを受けた、森 清範(もり せいはん)現清水寺貴主は、次のように語っています。

「人から、偉いなあと褒められるようなことは、したくともなかなかできないが、善いことができればいいなあ、と思うだけで身体が善い方に向いていく。と同時に、悪いことを考えても外からは見えないが、実際にせずとも、ふと思ひ浮かべるだけで、知らず知らず身体が悪いほうに向いてしまうのです」

人の心と行動は密接に結びついています。心の持ちようが善ければ、自ずと表情もよくなり、意識せずとも善い行動をとります。人にも優しくなるものです。そんなようすをみて、周囲の人はその人に信頼を置きます。

反対に、心の持ちようが悪ければ、自ずと表情は悪くなり、人に迷惑をかける行動をとってしまいがちです。誰がそんな人に信頼を寄せるでしょうか。

皆さんの心の持ちようはどうですか。よい表情をしているでしょうか。人に信頼される言動がとれているでしょうか。共に考えてみましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

